

ある日の育児日記から

(55)

佐藤 和代



有はもうすぐ三歳。このごろ突然、形のある絵を描くようになりました。これが楽しい。見たたび笑ってしまいます。

有が、大きなマルを描きます。その中に「おめめ」「おくち」と言いながらてんを描いていきます。「おとうさん」と言っつてめがねを加えます。「立ってるの」と言いながら、顔の下にぼうを一本。…そんなふう絵ができていくのです。

以前、家庭科の教師をしている友人に、授業で使うから子どもの絵を貸してと頼まれて、圭の描いた絵を年齢順に何枚か選んで渡したことがあります。

ます。そのときなぜか、こうやって見るのってつまらないなと思えました。その疑問が、有の絵を見ていたら解けたような気がしました。描いているときの言葉、表情、手の動き。全部ひっくるめての「絵」なんだ！できあがりだけ並べても面白くはないのですね。

だいたい、「立ってるの」とぼうを一本描いて体のできあがり…なんて、大人にはできない技。「ないている」と言っつて目の下にもぼうを二本。

ついでに鼻の下にも描いて「はなみず」。すごいなあ。私は前、「子どもの絵にはかなわない」なんて言葉はひどく陳腐だと思っついたのですけど、最近すっかり宗旨替えです。



これが有の描いたおとうさんです。